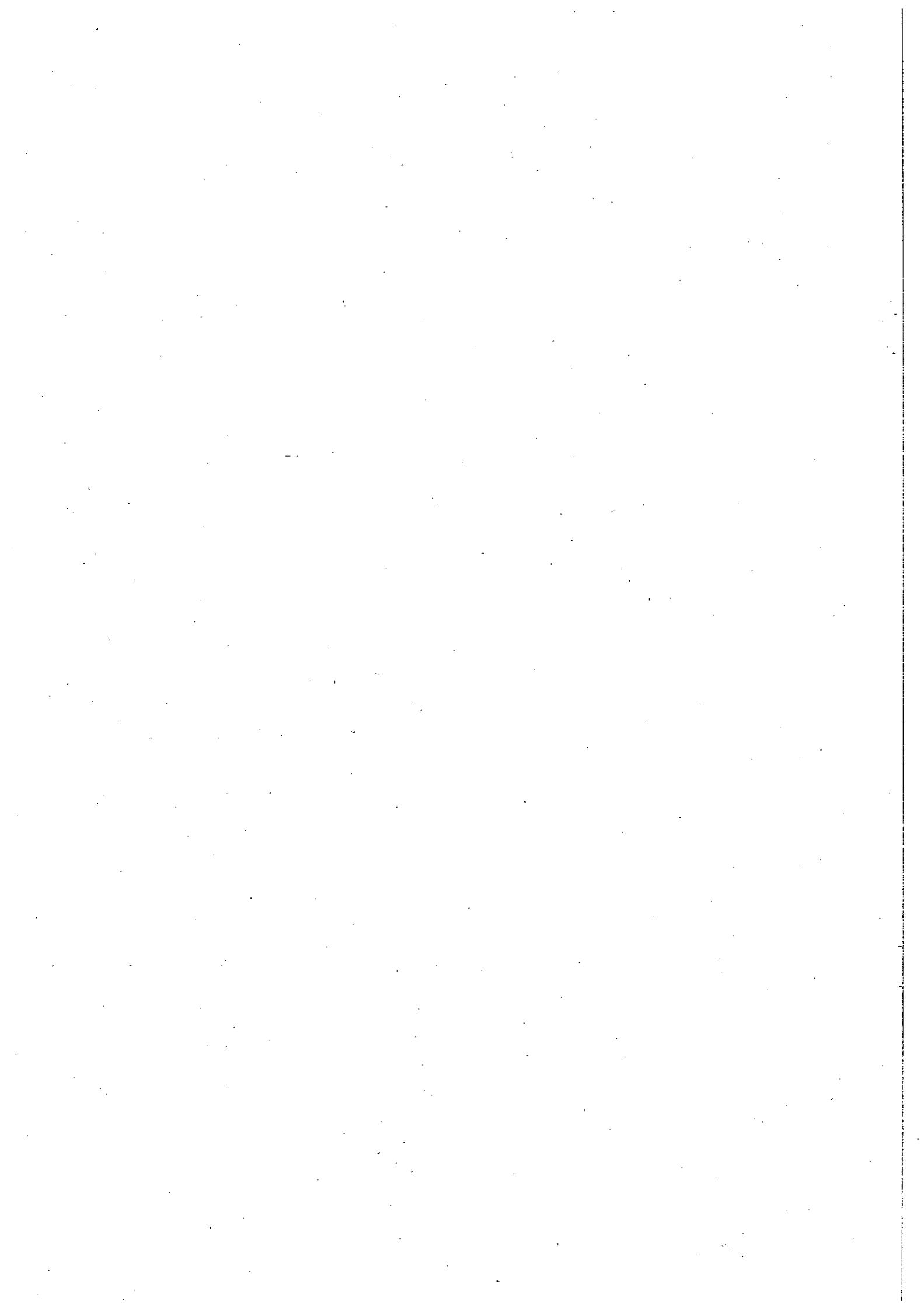


【資料2】

第2回高幡地域アクションプランフォローアップ会議資料

平成27年2月13日

平成27年度高幡地域アクションプランの追加、拡充、削除項目等について



地域アクションプランの追加・削除項目について

地域アクションプランの動向

H26年度 250 → H27年度 253 (+3)

地 域	H26年度	H27年度		
	AP数 H26.12時点	追 加	削 除	AP数
安芸	34	1	▲1	34
物部川	25	0	0	25
高知市	32	1	0	33
領 北	28	0	0	28
仁淀川	37	1	0	38
高幡	47	1	0	48
幡 多	47	1	▲1	47
合 計	250	5	▲2	253

平成27年度 高幡地域アクションプラン（案）項目対比表

No.	現在(平成26年度)	須崎市	中土佐町	梼原町	津野町	四万十町
		11	11	8	10	19
1	地域基幹園芸品目の生産振興と農家の所得向上	●	●		●	
2	中山間地域での持続可能な農林業経営の確立			●	●	
3	基幹品目等の維持・発展による地域農業の活性化					●
4	津野山牛のブランド化			●	●	
5	葉にんにくを活用した加工食品の生産・販売の拡大	●				
6	大野見米のブランド化		●			
7	梼原産キジ肉の生産・販売の拡大			●		
8	つの茶販売戦略				●	
9	集落営農組織のステップアップの推進				●	
10	直売所・農家レストランを核とした「地消地産」の推進				●	
11	四万十町地産外商の推進				●	
12	四万十町のこだわり野菜を使った加工品の生産販売による地域活性化				●	
13	四万十の栗再生プロジェクト				●	
14	滞在型市民農園等を活用した四万十町の移住を受け入れやすい風土づくり				●	
15	地域資源活用推進と加工場等の整備				●	
16	四万十の生姜プロジェクト				●	
17	「四万十ヒノキ」のブランド化を主体とした地域森林資源の有効活用	●			●	
18	「1億円産業の復活」をスローガンとする津野山産原木シイタケの产地化の推進		●	●		
19	県産竹材を活用した加工品づくりのための竹材の安定供給	●				
20	四万十川源流クロモジ等中山間資源活用ビジネスの創出	●				
21	循環型社会の構築を促進するための森林資源の有効活用		●			
22	津野町森林・林業再生プロジェクト			●		
23	四万十かおりビジネス事業				●	
24	美味しい！須崎の魚(いお)消費拡大プロジェクト	●				
25	野見湾産養殖カンパチの販路拡大	●				
26	浦ノ内湾産養殖マダイの販路拡大	●				
27	楠木鮮魚一を活用した南地区の活性化	●				
28	地域産物を活用したお魚チップスの生産・販路の拡大	●				
29	中土佐町地域ブランドの創出と販売促進		●			
30	シイラ加工の生産体制の強化				●	
31	シイラ加工食品の生産拡大				●	
32	大正町市場商店街活性化事業		●			
33	久礼の浜屋敷整備事業		●			
34	「中土佐のうまいもん食わしちゃお」商品開発プロジェクト	●				
35	梼原町地場産品の地産地消・外商の促進			●		
36	津野町地産地消・外商販売戦略				●	
37	四万十町拠点ビジネス体制の強化					●
38	高幡地域における広域観光の推進	●	●	●	●	●
39	須崎市の教育旅行や団体旅行の誘致に向けた体制の整備	●				
40	中土佐町の地域資源を活用した体験型・滞在型観光の推進	●				
41	梼原町の体験型・滞在型観光の推進			●		
42	清流と風と歴史に会えるまち津野町まるごと体感！～観光集客アップ作戦～				●	
43	わざわざいこう「海洋堂ホビー館四万十」を核としたミュージアムのまちづくり				●	
44	四万十町観光交流促進事業				●	
45	四万十町大正地区の地域経済活性化の核となる事業への取組				●	
46	しまんと時間満喫プロジェクト				●	
47	JA土佐くろしおが担う地域農業の活性化	●	●	●	●	

【高幡地域】

須崎市	中土佐町	梼原町	津野町	四万十町	No.	改定案(平成27年度)
11	12	8	10	20		
●	●		●		1	地域基幹園芸品目の生産振興と農家の所得向上
		●	●		2	中山間地域での持続可能な農林業経営の確立
	●			●	3	基幹品目等の維持・発展による地域農業の活性化
●	●	●			4	JA土佐くろしおが担う地域農業の活性化
		●	●		5	津野山牛のブランド化
●					6	葉にんにくを活用した加工食品の生産・販売の拡大
	●				7	大野見米のブランド化
拡充		●			8	梼原産キジ肉の生産・販売の拡大
		●			9	つの茶販売戦略
		●			10	集落営農組織のステップアップの推進
		●			11	直売所・農家レストランを核とした「地消地産」の推進
		●			12	四万十町地産外商の推進
		●			13	四万十町のこだわり野菜を使った加工品の生産販売による地域活性化
		●			14	四万十の栗再生プロジェクト
		●			15	滞在型市民農園等を活用した四万十町の移住を受け入れやすい風土づくり
		●			16	地域資源活用推進と加工場等の整備
		●			17	四万十の生姜プロジェクト
追加		●			18	四万十のうまい豚プロジェクト
	●		●		19	「四万十ヒノキ」のブランド化を主体とした地域森林資源の有効活用
		●	●		20	「1億円産業の復活」をスローガンとする津野山産原木シイタケの产地化の推進
●					21	県産竹材を活用した加工品づくりのための竹材の安定供給
●					22	四万十川源流クロモジ等中山間資源活用ビジネスの創出
	●				23	循環型社会の構築を促進するための森林資源の有効活用
		●			24	津野町森林・林業再生プロジェクト
		●			25	四万十かおりビジネス事業
●					26	美味しい！須崎の魚（いお）消費拡大プロジェクト
●					27	野見湾産養殖カンパチの販路拡大
●					28	浦ノ内湾産養殖マダイの販路拡大
●					29	楠木鮮魚一を活用した南地区の活性化
●					30	地域産物を活用したお魚チップスの生産・販路の拡大
●					31	中土佐町地域ブランドの創出と販売促進
	●				32	シイラ加工の生産体制の強化
		●			33	シイラ加工食品の生産拡大
		●			34	大正町市場商店街活性化事業
		●			35	久礼の浜屋敷整備事業
		●			36	「中土佐のうまいもん食わしちゃお」商品開発プロジェクト
拡充		●			37	梼原町地場産品の地産地消・外商販売戦略
		●			38	津野町地産地消・外商販売戦略
拡充	●	●	●	●	39	四万十町拠点ビジネス体制の強化
					40	高幡地域における広域観光の推進
					41	須崎市の教育旅行や団体旅行の誘致に向けた体制の整備
					42	中土佐町の地域資源を活用した体験型・滞在型観光の推進
		●			43	梼原町の体験型・滞在型観光の推進
		●			44	清流と風と歴史に会えるまち津野町まるごと体感！～観光集客アップ作戦～
		●			45	わざわざいこう「海洋堂ホビー館四万十」を核としたミュージアムのまちづくり
		●			46	四万十町観光交流促進事業
		●			47	四万十町大正地区の地域経済活性化の核となる事業への取組
		●			48	しまんと時間満喫プロジェクト

高幡地域アクションプランの追加・拡充（予定項目）

■追加

NO.	アクションプラン名	事業概要
1	四万十のうまい豚プロジェクト （四万十町） 【実施主体】 農事組合法人 四国デュロックファーム	豚肉と地元食材（米、野菜等）を活用した加工事業に取り組むとともに、直営の精肉店や飲食店を出店し、生産者自らが生産から販売までの一貫した事業を展開することで、四万十町産豚のブランド化と雇用創出を目指す。

■その他（拡充）

NO.	アクションプラン名	見直しする内容
1	N0. 8 つの茶販売戦略 （津野町） 【実施主体】 ・JA津野山 ・津野町	既存の荒茶加工場の統合による施設整備と、「つの茶」を材料とした茶商品の加工施設を整備する取組を追加する。
2	N0. 36 津野町地産地消・外商販売戦略 （津野町） 【実施主体】 ・(有)津野町ふるさとセンター ・津野町	直販所での農産物の販売に必要な出荷・販売・精算データ等を管理する「生産者販売システム」の機能向上を図るため、機器を整備する取組を追加する。
3	N0. 38 高幡地域における広域観光の推進 (高幡地域全域) 【実施主体】 ・高幡広域市町村圏事務組合 (高幡広域観光推進本部)	「2016 奥四万十博」の開催に向けた取組と広域観光を推進するための組織体制の強化に向けた取組を追加する。

有望素材シート(27年度)(案)

『地域アクションプラン』検討過程での有望素材の洗い出し

市町村名	四万十町	素材名	豚肉			
		関連素材	米、野菜等			
〔現状〕			<ul style="list-style-type: none"> 四万十町は県内でも有数の畜産の町であり、特に養豚業においては県内一の出荷頭数(H25実績：31,201頭/年)を誇っている。その中でも農事組合法人四国デュロックファームは、昭和47年にデュロック種の生産農場として養豚業を立ち上げ、現在では県内最大の農場(H25出荷頭数実績：13,000頭/年)である。 肉質を左右する飼料については、食品メーカーから仕入れた未利用食材(穀類、パン、濃縮ジュースの素など)を活用し、液状の食材も活用できるリキッドフィーディングシステム(*注)を導入しており、生産に係る各種データを日々取得・分析して、新しい試みを行うなど、効率的で高品質な豚肉の生産に取り組んでいる。 (*注)リキッドフィーディングシステムとは、飼料と水を混ぜて液状化した餌をコンピュータ制御で給餌するシステムで独自配合した栄養価の高い効率的な給餌を実現するものです。 現在の出荷先は日本ハムをはじめとする肉卸大手となっており、四国及び全国に出荷されている。 			
〔課題〕			<ul style="list-style-type: none"> 年間約30t掛けられる高産歴母豚や出荷格付けの等外豚の高付加価値化 四万十町産の豚肉の認知度向上 			
〔今後の方向性〕			<ul style="list-style-type: none"> 高産歴母豚や出荷格付けの等外豚については、加工品の商品開発を行い新たな付加価値を付けるとともに、精肉についても直販所での販売と合わせてその場で手軽に味わえるバーべキュー施設の整備を行うことによって販売促進を図る。また、高知市内へ展開する飲食店で情報発信を行い、産地への誘導を図る。 町内直販所及びバーべキュー施設では、地元農家の野菜とともに豚加工品や各種メニューを提供するなど、四万十町をまるごと味わえる施設として整備し、町外からの観光客等の来訪者を集めることで四万十町の交流人口の拡大と地元雇用の創出を目指す。 町内養豚事業者(達川養豚協会)と連携し、豚肉加工部門やイベントなどに取り組むとともに、情報発信を積極的に行うことで注目を集め、町内で生産される豚の認知度向上とブランド化を目指す。 			
〔地域アクションプラン〕における具体的な取り組み案						
項目	取り組み名	四万十のうまい豚プロジェクト				
	関係市町村名	四万十町				
【事業概要】						
事業の概要	<p>豚肉と地域食材(米、野菜等)を使用した加工事業に取り組み、四万十町内の直営販売店及び高知市に直営のパル形式の飲食店を出店し、生産者自らが生産、加工、販売事業を実施することで四万十町産豚のブランド化と雇用創出を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 加工所及び直販所の建設、テナント出店 <ul style="list-style-type: none"> 豚肉加工施設+精肉加工 販売施設+バーべキュー施設の建設 パル形式の飲食店出店(高知市(2店舗)へのテナント出店) 2. 商品開発及び販路開拓 <ul style="list-style-type: none"> 豚肉加工メニューの開発 自社HPの制作及びパンフレット作成 国内食品加工展示会への出展 					
	<p>【事業主体】 農事組合法人四国デュロックファーム 【関係機関】 地域の農業者(主に米、野菜等)</p>					
主な内容・スケジュール	取組手順	前年度 【H26】	事業実施 【H27】	年後 【H28】	2年後 【H29】	3年後 【H30以後】
	加工所及び直販所の建設 テナント出店	<ul style="list-style-type: none"> 収支計画策定 出店場所リサーチ 加工所・テナント基本設計・算算 	<ul style="list-style-type: none"> 加工所+精肉・加工品販売施設+バーべキュー施設 高知市へのテナント1店舗出店 操業開始 	2店自出店(高知市内等)		<ul style="list-style-type: none"> 中四国または関西・関東圏への出店
指標目標	商品開発及び販路開拓	主菜メニューの開発	商品開発	<ul style="list-style-type: none"> 国内の食品展示会への出展 お中元・お歳暮商品の卸開拓 全国の催事への出店 		
	項目	前年度 【H26】	事業実施 【H27】	1年後 【H28】	2年後 【H29】	3年後 【H30以後】
総事業費等	雇用数の増	—	—	5	1	0
	販売目標額(千円)	—	—	89,955	132,059	135,168
【設定根拠】 26年度に基本計画を策定し、27年度に加工所及び直販所の整備を実施するとともに高知市内へテナント出店を行い、28年の開業を目指して必要なスタッフの雇用を実施する。 28年度以降は高知市内へのテナント2号店の出店や県外出店を目指すとともに卸先の販路開拓に取り組んでいく。						
備考						
総事業費 (内訳 国: 県: 50,000千円 市町村: その他: 64,000千円)						
想定する支援事業(補助金名称、人的支援の内容、その他) 国: 県: 高知県産業振興推進総合支援事業 その他:						
備考						

追加項目(案)

【高幡地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
四十のうまい豚プロジェクト （四十町）	豚肉と地元食材（米、野菜等）を活用した加工事業に取り組むとともに、直営の精肉店や飲食店を出店し、生産者自らが生産から販売までの一貫した事業を展開することで、四十町産豚のブランド化と雇用創出を目指す。	・農事組合法人四国デュロックファーム			◆加工所及び直販所の建設、テナント出店 ◆商品開発及び販路開拓

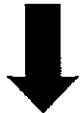
第2期計画				指標及び目標	
H24年6月	H25年3月	H26年3月	H27年3月	指標	目標(H27)
		<p>加工所及び直販所の建設、テナント出店</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本設計 	<ul style="list-style-type: none"> ・実施設計 加工所及び直販所の整備 ・高知市ヘテナント1号店出店 		
		<p>商品開発及び販路開拓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本メニューの検討 	<p>新たな商品開発及び販路開拓</p>		

修正項目(案)

【高幡地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
8 つの茶販売戦略 《津野町》	単価安い二番茶をほうじ茶として「お茶スイーツ」に加工し、商品力アップ・ブランナーとしての地位を固めることで、「つの茶」の地域ブランド化を目指し、主力商品である、一番茶の単価アップ、生産・販売量増等の波及効果を狙う。	・JA津野山 ・津野町	<ul style="list-style-type: none"> ・加工開発販売ビジネス(H21~25) <ul style="list-style-type: none"> ◆地域食材に付加価値を付けた商品を開発販売することで、地域の活性化を図るため、専門家によるメニュー開発、販売計画と共に食材供給体制の整備などを行った。 ◆ペットボトル「てっぺん四万十茶」の改良を行い、500mlのほうじ茶ペットボトルを新たにラインナップに加えた。 ・つの茶販売戦略検討会(H25) <ul style="list-style-type: none"> ◆茶生産組合・JA津野山・行政により戦略会議を立ち上げ、「つの茶販売戦略計画」を策定した。 ◆生産農家対象のアンケートを実施した。 ◆つの茶のブランディング、販路拡大に関して、産業振興アドバイザーを招聘、「ボトルティ」、「葉茶」開発の検討を始めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・価格低迷打破、6次化による安定価格での取引 ・平成16年頃からの二番茶の急激な単価安への対応 ・地域ブランドの確立 ・一番茶の販売増 ・生産農家の高齢化、放棄茶園対策 ・機械リースシステムの構築 ・生産組織再編成(旧葉山・東津野) ・品質保持・生産履歴・安心安全農業の取り組み ・老朽化した茶工場への対応 	◆生産体制、販売体制の強化

修正前

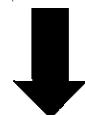


【高幡地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
9 つの茶販売戦略 《津野町》	「つの茶」の一番茶としての品質向上により単価アップを目指すとともに、「つの茶」を原材料とした多様な茶商品の開発・加工・流通・販売といった6次化により、地域ブランド力を高め、農家の所得向上につなげる。	・JA津野山 ・津野町	<ul style="list-style-type: none"> ・加工開発販売ビジネス(H21~26) <ul style="list-style-type: none"> ◆地域食材に付加価値を付けた商品を開発販売することで、地域の活性化を図るため、専門家によるメニュー開発、販売計画と共に食材供給体制の整備などを行った。 ◆ペットボトル「てっぺん四万十茶」の改良を行い、「四万十川源流茶」として500mlの新茶「ほうじ茶ペットボトルを新たにラインナップに加えた。 ◆かぶせ茶を生産・製品化に加え、かぶせ茶パウダーを活用した「みるく豆」を製品化、「津野山ビール」といった新たな飲み方の提案を始めた。 ・つの茶販売戦略検討会(H25~26) <ul style="list-style-type: none"> ◆茶生産組合・JA津野山・行政により戦略会議を立ち上げ、「つの茶販売戦略計画」を策定した。 ◆生産農家対象のアンケートを実施した。 ◆つの茶のブランディング、販路拡大に関して、産業振興アドバイザーを招聘、「ボトルティ」、「葉茶」開発の検討を始めた。 ・相談再編・茶工場改修(H25~) <ul style="list-style-type: none"> ◆茶生産組合の再編、老朽化した茶工場改修、クリーンルーム、自動充填機等の整備について、国(強い農業づくり交付金)に申請した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・価格低迷打破、6次化による安定価格での取引 ・平成16年頃からの二番茶の急激な単価安への対応 ・地域ブランドの確立 ・一番茶の販売増 ・生産農家の高齢化、放棄茶園対策 ・機械リースシステムの構築 ・生産組織再編成(旧葉山・東津野) ・品質保持・生産履歴・安心安全農業の取り組み ・老朽化した茶工場への対応 	◆生産体制、販売体制の強化 ◆茶生産組合の再編・茶工場等整備

修正後

第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
生産体制、販売体制の強化					茶販売額 (H22:65,720千円)	69,000千円
<ul style="list-style-type: none"> ・加工所・アンテナショップにおける「ほうじ茶スイーツ」による認知度アップ ・茶葉の特徴を活かした品質維持 ・販売形態(パック・包材)・販売活動等の見直し 						

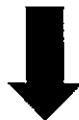


第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
生産体制、販売体制の強化					茶販売額 (H22:65,720千円)	69,000千円
<ul style="list-style-type: none"> ・加工所・アンテナショップにおける「ほうじ茶スイーツ」による認知度アップ ・茶葉の特徴を活かした品質維持 ・新商品開発、販売活動の強化 						
茶生産組合の再編・茶工場等整備						
<ul style="list-style-type: none"> ・茶山・東津野茶生産組合(加工)統合に向けての協議 						
<ul style="list-style-type: none"> ・茶茶加工施設整備 ・茶製品製造機器等導入 						

修正項目(案)

【高幡地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
36 津野町地産地消・外商販売戦略 《津野町》	ビジネスの拠点となる組織が中心となって、農産物販売システムにより、津野町の产品的販売を行っている。 ふるさとセンターと道の駅の統合、高知店(瀬戸、十津店)の改善計画策定、新アンテナショップとの連携等により、拠点ビジネスの安定化を図り、組織体制の再構築、町内外への情報発信による交流人口の拡大を図る。	・ふるさとセンター ・津野町	<ul style="list-style-type: none"> ・地産地消ビジネス(H21~23) <ul style="list-style-type: none"> ◆某荷所整備、町内直販拠点施設(道の駅等の)整備による町内流通網の拡充、販売組織・機能の統一(手数料、清算方式等)による町内1直販所構想の実現、生産性向上(ハウス、実証圃等)対策などにより、会員も増加して販売額も増加傾向にある。 ・アンテナショップ、加工所の整備運営(H23~25) <ul style="list-style-type: none"> ◆H24.4.11津野町船戸に加工所、高知市南川添にアンテナショップを同時オープン。指定管理者である㈱満天の星が初年度2億円を超える売上を達成。 	<ul style="list-style-type: none"> ・H23年度に統合したふるさとセンターと道の駅が作成した具体的な経営改善計画(体制、戦略等)の実行 ・アンテナショップ・加工場への食材供給や加工所商品の販売の安定化 ・野菜の供給量確保 ・十津店、瀬戸店の体制等の改善 	<ul style="list-style-type: none"> ◆高知市アンテナショップ拡充・改善 ◆加工所等への供給体制整備 ◆地産地消の仕組みづくり

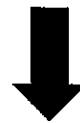


【高幡地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
38 津野町地産地消・外商販売戦略 《津野町》	ビジネスの拠点となる組織が中心となって、農産物販売システムにより、津野町の产品的販売を高知市(3店舗)、津野町(3店舗)の直販所で行っている。 (有)ふるさとセンターの経営計画の策定、(株)満天の星との連携により、拠点ビジネスを安定させ、売上の向上、組織体制の再構築、町内外への情報発信による交流人口の拡大を図る。	・(有)津野町ふるさとセンター ・津野町	<ul style="list-style-type: none"> ・地産地消ビジネス(H21~23) <ul style="list-style-type: none"> ◆某荷所整備、町内直販拠点施設(道の駅等の)整備による町内流通網の拡充、販売組織・機能の統一(手数料、清算方式等)による町内1直販所構想の実現、生産性向上(ハウス、実証圃等)対策などにより、会員も増加して販売額も増加傾向にある。 ・アンテナショップ、加工所の整備運営(H23~26) <ul style="list-style-type: none"> ◆H24.4.11津野町船戸に加工所、高知市南川添にアンテナショップを同時オープン。指定管理者である㈱満天の星が初年度2億円を超える売上を達成し、H25.26も売上は堅調に推移している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・H23年度に統合したふるさとセンターと道の駅が作成した具体的な経営改善計画(体制、戦略等)の実行 ・アンテナショップ・加工場への食材供給や加工所商品の販売の安定化 ・野菜の供給量確保 ・十津店、瀬戸店の体制等の改善 	<ul style="list-style-type: none"> ◆直販所の拡充・改善 ◆農産物の生産体制整備 ◆産直システムの機能向上

修正後

第2期計画				指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	指標	目標値(H27)
高知市アンテナショップ拡充 高知店の再構 ①瀬戸店の縮小 ②新十津店の整備		高知市アンテナショップの拡充・改善 高知店の改修 ①瀬戸店の売り場再構築(見直し) ②新十津店の販路拡大		高知店販売額 (H22:69百万円) 販売額 (H19:110百万円) (H22:136百万円)	90百万円 162百万円
加工所等への供給体制整備 生産力向上対策 ①アンテナショップ、加工場等対策(生産計画) ②ハウス等の整備		地産地消の仕組みづくり (仮称)こうち地産地消推進協議会の設立準備 地産地消の仕組みづくりの検討 (仮称)こうち地産地消推進協議会設立		(仮称)こうち地産地消推進協議会の運営	



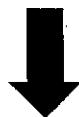
第2期計画				指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	指標	目標値(H27)
直販所の拡充・改善 ①瀬戸店の縮小 ②新十津店の整備		直販所の拡充・改善 ①瀬戸店の売り場再構築(見直し)、改修 ②新十津店の販路拡大 ③販路の改修		高知店(3店舗)販売額 (H22:69百万円) 販売額 (H19:110百万円) (H22:136百万円)	90百万円 162百万円
農産物の生産体制整備 生産力向上対策 ①アンテナショップ、加工場等対策(生産計画) ②ハウス等の整備		生産者直販システムを使った消費者ニーズのフィードバックによる商品力向上 生産者直販システムの機能向上			

修正項目(案)

【高幡地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
38 高幡地域における広域観光の推進 《高幡地域全域》	高幡地域内の観光地、自然、食、人などの観光資源を組み合わせて新たな商品を造成するとともに、高幡地域ならではの魅力をPRすることで知名度の向上及び観光客数の増加を図る。そして、造成された商品を県内外の旅行代理店への営業活動を積極的に展開することで団体旅行の誘致に結び付け、広域への経済効果を波及させていく。	・高幡広域市町村圏事務組合 (高幡広域観光推進本部)	・推進体制の整備(H25) ◆平成25年11月1日に高幡地域の広域観光組織として「高幡広域観光推進本部」を設立した。		◆観光情報の管理及び情報発信 ◆商品の造成、開発 ◆商品及び観光資源の営業販売

修正前

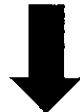


【高幡地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
40 高幡地域における広域観光の推進 《高幡地域全域》	高幡地域内の観光地、自然、食、人などの観光資源を組み合わせて新たな商品を造成するとともに、高幡地域ならではの魅力をPRすることで知名度の向上及び観光客数の増加を図る。そして、造成された商品を県内外の旅行代理店への営業活動を積極的に展開することで団体旅行の誘致に結び付け、広域への経済効果を波及させていく。	・高幡広域市町村圏事務組合 (高幡広域観光推進本部)	・推進体制の整備(H25) ◆平成25年11月1日に高幡地域の広域観光組織として「高幡広域観光推進本部」を設立した。 ◆平成26年1月17日に高幡広域観光推進本部会議を開催し、本部内において地域博覧会を行うことについて合意した。 ◆平成26年12月3日に地域博覧会を推進していく組織として「奥四万十博推進協議会」が設立した。	・博覧会終了後も持続的に広域観光を推進していくための組織体制の強化	◆観光情報の管理及び情報発信 ◆商品の造成、開発 ◆商品及び観光資源の営業販売 ◆2016奥四万十博開催 ◆広域観光組織の機能強化

修正後

第2期計画					指標及び目標		
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標(H27)	
					<ul style="list-style-type: none"> -観光情報の管理及び情報発信 <ul style="list-style-type: none"> ・国内市町及び観光関係団体からの観光情報の収集 ・5市町の観光資源やイベント情報の管理 ・HPやパンフレットを活用した広域観光情報の発信 ・観光素材の写真や関係情報のデータベース化 ・特産品などの地域物産のPR -商品の造成及び開発 <ul style="list-style-type: none"> ・周遊プラン及び旅行商品の造成・開発 -商品及び観光資源の営業販売 <ul style="list-style-type: none"> ・観光資源や旅行商品のエージェントへのセールス ・エージェント向けパンフレットの作成 	<ul style="list-style-type: none"> -主要観光施設入込客数(H24) (365,119人) -宿泊者数(H24) (39,163人) 	<ul style="list-style-type: none"> 372,000人 40,000人



第2期計画					指標及び目標		
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標(H27)	
					<ul style="list-style-type: none"> -観光情報の管理及び情報発信 <ul style="list-style-type: none"> ・国内市町及び観光関係団体からの観光情報の収集 ・5市町の観光資源やイベント情報の管理 ・HPやパンフレットを活用した広域観光情報の発信 ・観光素材の写真や関係情報のデータベース化 ・特産品などの地域物産のPR -商品の造成及び開発 <ul style="list-style-type: none"> ・周遊プラン及び旅行商品の造成・開発 -商品及び観光資源の営業販売 <ul style="list-style-type: none"> ・観光資源や旅行商品のエージェントへのセールス ・エージェント向けパンフレットの作成 2016年度四万十協議会 <ul style="list-style-type: none"> ・協議会推進協議会の立ち上げ ・基本計画の策定 ・実施計画の策定 ・協議会の運営 ・協議会の評議 広域観光組織の機能強化 <ul style="list-style-type: none"> ・協議会終了後も持続的に広域観光を推進していくための組織体制の強化 	<ul style="list-style-type: none"> -主要観光施設入込客数(H24) (365,119人) -宿泊者数(H24) (39,163人) 	<ul style="list-style-type: none"> 372,000人 40,000人

修正項目(案)

【高幡地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	問題	主な内容
1 地域基幹園芸品目の生産振興と農家の所得向上 《須崎市、中土佐町、津野町》	まとまりのある園芸産地づくりを推進するなどして収量・品質の向上に努める。同時に、消費者からの安全・安心の要望に応えるために環境保全型農業を推進し、産地のこだわりを「見える化」した販売に対応してエコシステム栽培品目の増加に取り組むことなどにより、販売額の維持・増加を目指す。あわせて、重油価格等の資材高騰に対応するなどして経営内容の改善を進めることにより農家の所得向上に取り組み、産地の安定的な発展を目指す。	JA土佐くろしお JA四万十	<ul style="list-style-type: none"> ・伸び余地(H21～25) <ul style="list-style-type: none"> ◆栽培技術や経営分析診断の指導等により、主幹品目の収量・品質が向上して、販売額が高まつた。特にミョウガでは平成25園芸年度の販売額が55.9億円となつた。 ・IPM技術の取組(H21～25) <ul style="list-style-type: none"> ◆主要8品目で取り組み、シットウの現地実証園の取組の成功により天敵の導入が急速に進み農業使用量の低減につながつた。その他の品目でもIPM技術の導入が始まっている。 ・省エネ対策(H21～25) <ul style="list-style-type: none"> ◆多層被覆や変温管理、重油代替加温機の導入が進んだ。特に、ミョウガ等高温性の品目では現地実証ほの取り組み等によりハウス内環境制御への関心が高まっている。 ・くろしお版GAPの推進(H21～25) <ul style="list-style-type: none"> ◆流通・販売上の対策として、主要8品目で取り組んだ。キュウリでは平成23園芸年度から都会全体でエコシステム栽培の取組が始まった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の農家の所得の向上と安定化 ・重油高騰に伴い急速に導入の進んだ重油代替加温機の効率的活用技術の確立 ・新規就農者の増加 ・既存市場では飽和状態に近いのではないかと危惧されているミョウガの市場開拓、販路開拓 ・ミョウガ養液栽培における排水処理対策 	<ul style="list-style-type: none"> ◆収量・品質向上対策 ◆生産コスト低減対策 ◆環境保全型農業の推進 ◆流通・販売上の対策



【高幡地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	問題	主な内容
1 地域基幹園芸品目の生産振興と農家の所得向上 《須崎市、中土佐町、津野町》	まとまりのある園芸産地づくりを推進するなどして収量・品質の向上に努める。同時に、消費者からの安全・安心の要望に応えるために環境保全型農業を推進し、産地のこだわりを「見える化」した販売に対応してエコシステム栽培品目の増加に取り組むことなどにより、販売額の維持・増加を目指す。あわせて、重油価格等の資材高騰に対応するなどして経営内容の改善を進めることにより農家の所得向上に取り組み、産地の安定的な発展を目指す。	JA土佐くろしお	<ul style="list-style-type: none"> ・伸び余地(H21～29) <ul style="list-style-type: none"> ◆栽培技術や経営分析診断の指導等により、主幹品目の収量・品質が向上して、販売額が高まつた。特にミョウガでは平成26園芸年度の販売額が59.6億円となつた。 ・環境制御技術の現地実証(H25～26) <ul style="list-style-type: none"> ◆平成25園芸年度から実証を開始し、取組の品目が認められた。 ・IPM技術の取組(H21～26) <ul style="list-style-type: none"> ◆主要8品目で取り組み、シットウの現地実証園の取組の成功により天敵の導入が急速に進み農業使用量の低減につながつた。その他の品目でもIPM技術の導入が始まっている。 ・省エネ対策(H21～26) <ul style="list-style-type: none"> ◆多層被覆や変温管理、重油代替加温機の導入が進んだ。特に、ミョウガ等高温性の品目では現地実証ほの取り組み等によりハウス内環境制御への関心が高まっている。 ・くろしお版GAPの推進(H21～26) <ul style="list-style-type: none"> ◆流通・販売上の対策として、主要8品目で取り組んだ。キュウリでは平成23園芸年度から都会全体でエコシステム栽培の取組が始まった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の農家の所得の向上と安定化 ・環境制御技術の安定化 ・重油高騰に伴い急速に導入の進んだ重油代替加温機の効率的活用技術の確立 ・新規就農者の増加 ・ミョウガ養液栽培における排水処理対策 	<ul style="list-style-type: none"> ◆収量・品質向上対策 ◆生産コスト低減対策 ◆環境保全型農業の推進 ◆流通・販売上の対策

修正後

第2期計画					指標及び目標
H24	H25	H26	H27	H28以降	年度別指標 目標額(H27)
収量・品質向上対策 農家の高い技術を学び合い教え合う場づくり	農家の高い技術を学び合い教え合うことによる収量・品質の向上				主要農産物販売額 ミョウガ (H19:47.2億円) (H23:52.9億円) 56.8億円
新作物・新品种・新技术の情報収集	新品種・新技术のマニュアル作成や栽培履への反映と定着化				
新品种・新技术の実証・展示は設置					
生産コスト低減対策	コスト低減につながる生産資材の検討と導入推進				
蜜柑代替品種房機の効果の検証	蜜柑代替品種房機の新規導入の推進				
環境保全型農業の推進	既存IPM技術の普及率向上	くろしお版IPM技術の普及率向上			
新しいIPM技術の情報収集	新しいIPM技術のマニュアル作成や栽培履への反映と定着化				
新しいIPM技術の実証・展示は設置					
	ミョウガ排水処理装置導入計画の推進と排水処理の低減対策				
流通・販売上の対策	GAPの徹底とエコシステム栽培品目の拡充				
	主幹品目の新たな販路の開拓				



第2期計画					指標及び目標
H24	H25	H26	H27	H28以降	年度別指標 目標額(H27)
収量・品質向上対策 農家の高い技術を学び合い教え合う場づくり	農家の高い技術を学び合い教え合うことによる収量・品質の向上				主要農産物販売額 ミョウガ (H19:47.2億円) (H23:52.9億円) 60億円
新作物・新品种・新技术の情報収集	環境制御技術の選用実証及び導入と定着化				
新品种・新技术の実証・展示は設置	新品種・新技术のマニュアル作成や栽培履への反映と定着化				
生産コスト低減対策	コスト低減につながる生産資材の検討と導入推進				
蜜柑代替品種房機の効果の検証	蜜柑代替品種房機の新規導入の推進及び効率的活用技術の確立				
環境保全型農業の推進	既存IPM技術の普及率向上	くろしお版IPM技術の普及率向上			
新しいIPM技術の情報収集	新しいIPM技術のマニュアル作成や栽培履への反映と定着化				
新しいIPM技術の実証・展示は設置					
	ミョウガ排水処理装置導入計画の推進と排水処理の低減対策				
流通・販売上の対策	GAPの徹底とエコシステム栽培品目の拡充				
	主幹品目の新たな販路の開拓				

修正項目(案)

【高幡地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
3 基幹品目等の維持・発展による地域農業の活性化 《四十町》	農業の基幹品目及び推進品目等の維持発展のために、農業者と関係機関が一休となって、収量・品質の向上、経営改善、環境保全型農業の推進などに取り組む。	JJA四万十	<ul style="list-style-type: none"> ・字び教え合ふ場(H21～25) ◆ミョウガなど基幹品目の販売額増加、新規就農者の確保やレンタルハウス事業等による施設整備など、産地の維持・発展が図られ、地域農業の活性化に繋がった。特にミョウガでは、平成23園芸年度の販売額が12.3億円と過去最高となり平成23年度の目標13億円を達成した。 ・栽培技術の向上による収量・品質の向上(H21～25) ◆目標収量達成率 H21:75%、H22:76%、H23:55%、H24:42% ・環境保全型農業の推進 (H21～H25) ◆JA部会でのエコシステム認証出荷を開始し、H21年度はミョウガ、ピーマン、キュウリ、H22年度には盆地ショウガを追加して、環境保全型農業に取り組んだ。 ・新規就農者の確保(H21～25) ◆関係機関と連携した取組により48名の新規就農者を確保できた。 H21:19名、H22:9名、H23:11名、H24:9名 	<ul style="list-style-type: none"> ・生産出荷指標の達成に向けた計画生産の実施 ・二郎の販売額10億円に向けたビジョンの作成及び課題解決 	<ul style="list-style-type: none"> ◆栽培技術の向上による高品質・安定生産技術の普及 ◆環境保全型農業の推進 ◆生産コスト低減対策 ◆新規就農者の育成・確保及び農家の経営安定

修正前



【高幡地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
3 基幹品目等の維持・発展による地域農業の活性化 《中土佐町、四十町》	農業の基幹品目及び推進品目等の維持発展のために、農業者と関係機関が一休となって、収量・品質の向上、経営改善、環境保全型農業の推進などに取り組む。	JJA四万十	<ul style="list-style-type: none"> ・字び教え合ふ場(H21～26) ◆ミョウガなど基幹品目の販売額増加、新規就農者の確保やレンタルハウス事業等による施設整備など、産地の維持・発展が図られ、地域農業の活性化に繋がった。二郎では収量向上や雇用、担い手対策など産地課題の解決に向けた取組が図られ始めた。 ・栽培技術の向上による収量・品質の向上(H21～26) ◆目標収量達成率 H21:75%、H22:76%、H23:55%、H24:76%、H25:74% ・環境制御技術の現地実証(H25～26) ◆平成25園芸年度から実証を開始し、収量増の品目が認められた。 ・環境保全型農業の推進 (H21～26) ◆JA部会でのエコシステム認証出荷を開始し、H21年度はミョウガ、ピーマン、キュウリ、H22年度には盆地ショウガを追加して、環境保全型農業に取り組んだ。 ・新規就農者の確保(H21～26) ◆関係機関と連携した取組により50名の新規就農者を確保できた。 H21:19名、H22:9名、H23:11名、H24:9名、H25:20名 	<ul style="list-style-type: none"> ・生産出荷指標の達成に向けた計画生産の実施 ・二郎の販売額10億円に向けたビジョンの作成及び課題解決 ・環境制御技術の確立と普及 	<ul style="list-style-type: none"> ◆栽培技術の向上による高品質・安定生産技術の普及 ◆環境保全型農業の推進 ◆生産コスト低減対策 ◆新規就農者の育成・確保及び農家の経営安定

修正後

第2期計画					指標及び目標
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標 目標値(H27) 目標値(H27)
栽培技術の向上による高品質・安定生産技術の普及					主要農産物販売額 ニラ (H22:8億円)
まとまりのある園芸産地育成事業などによる収量・品質の向上					
環境保全型農業の推進					
JA四万十版IPM技術の普及・定着					
生産コスト低減対策					
重油代管理削減、コスト低減資材の検討と導入推進					
新規就農者の育成・確保及び農家の経営安定					
簿記及び生産データの有効活用による経営改善及びレンタルハウス事業等を活用した施設導入と規模拡大					



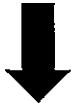
第2期計画					指標及び目標
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標 目標値(H27) 目標値(H27)
栽培技術の向上による高品質・安定生産技術の普及					主要農産物販売額 ニラ (H22:8億円)
まとまりのある園芸産地育成事業などによる収量・品質の向上					
貯蔵剥壳技術の現地実証及び導入と定着化					
環境保全型農業の推進					
JA四万十版IPM技術の普及・定着					
生産コスト低減対策					
重油代管理削減、コスト低減資材の検討と導入推進					
新規就農者の育成・確保及び農家の経営安定					
簿記及び生産データの有効活用による経営改善及びレンタルハウス事業等を活用した施設導入と規模拡大					

修正項目(案)

【高幡地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
10 直売所・農家レストランを核とした「地消地産」の推進 《四十町》	JA四万十「みどり市」産直コナー等への野菜の安定供給や販売拡大を図ると共に、「みどり市」の移転、農家レストランの開業を行い、地消地産による地域の農業者の所得向上を目指す。	-JA四万十	<ul style="list-style-type: none"> ・農産物の安定供給(H21~25) ◆JA四万十「みどり市」の販売部会員数は、目標の330名を達成し、農産物等の安定供給に努めた。 311名(H19)→420名(H26.1月現在) ・農産物の販売拡大や加工品の開発(H21~25) ◆産直部門の売上高は、単価安の厳しい状況の中ではわざとではあるが、年々増加し、加工品の開発販売にも取り組むなど農家所得の向上に努めた。 ・学校給食への食材供給(H21~25) ◆給食センターへの農産物の供給組織が新たに組織設立され、供給体制が整ってきており、町内産品の占める割合も増加してきた。 給食の地場産率(H23) 重量ベース73% 食品類ベース48% ・農家レストラン等の整備(H25) ◆産直補助金(設事業費約1億円)を活用して農家レストラン等建設 産直コナー販売金額: H25.11月末 8.68百万円、 (H24同期比104%) 	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜等の安定供給と販売の多面化 ・みどり市の移転と農家レストランの開業 	<ul style="list-style-type: none"> ◆野菜等の栽培推進 ◆販売の多面化 ◆みどり市・農家レストランの建設

修正前



【高幡地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
11 直売所・農家レストランを核とした「地消地産」の推進 《四十町》	JA四万十「みどり市」産直コナー等への野菜の安定供給や販売拡大を図ると共に、「みどり市」の移転、農家レストランの開業を行い、地消地産による地域の農業者の所得向上を目指す。	-JA四万十	<ul style="list-style-type: none"> ・農産物の安定供給(H21~25) ◆JA四万十「みどり市」の販売部会員数は、目標の330名を達成し、農産物等の安定供給に努めた。 311名(H19)→399名(H26.12月現在) ・農産物の販売拡大や加工品の開発(H21~26) ◆産直部門の売上高は、単価安の厳しい状況の中ではわざとではあるが、年々増加し、加工品の開発販売にも取り組むなど農家所得の向上に努めた。 ・学校給食への食材供給(H21~26) ◆給食センターへの農産物の供給組織が新たに2組織設立され、供給体制が整ってきており、町内産品の占める割合も増加してきた。 給食の地場産率(H23) 重量ベース73% 食品類ベース48% ・みどり市・農家レストラン等の整備、運営(H25~26) ◆産直補助金(設事業費約1億円)を活用して農家レストラン(手作りキッチン)等の建設(H25) ◆みどり市の直営検討会、栽培・加工講習会、研修会の実施 産直コナー販売金額: H26.12月末 117.2百万円、 (H25同期比103%) 	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜等の安定供給と販売の多面化 	<ul style="list-style-type: none"> ◆野菜等の栽培推進 ◆販売の多面化 ◆みどり市・農家レストランの建設

修正後

第2期計画					H28以降	指標及び目標	
H24	H25	H26	H27			指標	目標(12ヶ月)
野菜等の栽培推進					→	産直コーナーの販売 金額 (H22:159百万円)	180百万円
販売の多面化					→		
みどり市・農家レストランの建設					→		
協議会の設立、建設内容の検討		運営内容や機能、メニューの決定、施設整備					



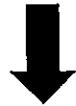
第2期計画					H28以降	指標及び目標	
H24	H25	H26	H27			指標	目標(12ヶ月)
野菜等の栽培推進					→	産直コーナーの販売 金額 (H22:159百万円)	180百万円
販売の多面化					→		
みどり市・農家レストランの建設					→		
協議会の設立、建設内容の検討		運営内容や機能、メニューの決定、施設整備					

修正項目(案)

【高幡地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
13 四十万の栗再生プロジェクト 《四十町》	北幡地域で生産される栗の產地力強化に向け、民間直営農場や作業受託組織の育成等、新たな担い手による生産拡大と精産に対応できる集荷施設の整備などをを行い、安定的な加工商品の生産と需要の拡大を図り、中山間地域の活性化を目指す。	・四十町の栗再生プロジェクト推進協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・品質向上、ブランド化(H21～25) <ul style="list-style-type: none"> ◆四十町の栗再生プロジェクト推進協議会を設置し、生産から加工、流通販売に至る一元的な体制を構築するとともに、せん定技術や選果選別の徹底により品質向上を図った。 <u>「特選栗志向者(園)認定11名」</u> ・生産体制の構築(H21～25) <ul style="list-style-type: none"> ◆新規、再生モデル園の設置や、先達地の育定師養成派遣研修の実施、栗栽培テキストやGA-Pチェックシート作成、加工業者等対象の認定・改植講習会、栗生産者大会が開催できた。 ◆栗園地再生に向け、しまんと新一次産業(株)が設立された。 新改植の増加 H22:3ha、H23:3.5ha、H24:9ha ・雇用の創出(H22～25) <ul style="list-style-type: none"> ◆H18に就職したタネニサ(有)十和工場では、H24で年間延べ800人の雇用の創出に繋がった。 ・施設整備、商品開発(H24～25) <ul style="list-style-type: none"> ◆道の駅とおわの農地内に、カフェを併設した加工場を整備し、商品開発や販路開拓に取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生産者の高齢化と園地の老木化による、原料供給不足 ・イノシシ・シカ等鳥獣被害による生産意欲の低迷 	<ul style="list-style-type: none"> ◆生産拡大 ◆施設整備 ◆担い手育成 ◆販路開拓

修正前



【高幡地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
14 四十万の栗再生プロジェクト 《四十町》	北幡地域で生産される栗の產地力強化に向け、民間直営農場や作業受託組織の育成等、新たな担い手による生産拡大と精産に対応できる集荷施設の整備などをを行い、安定的な加工商品の生産と需要の拡大を図り、中山間地域の活性化を目指す。	・四十町の栗再生プロジェクト推進協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・品質向上、ブランド化(H21～28) <ul style="list-style-type: none"> ◆四十町の栗再生プロジェクト推進協議会を設置し、生産から加工、流通販売に至る一元的な体制を構築するとともに、せん定技術や選果選別の徹底により品質向上を図った。 <u>「特選栗」栽培認定者(累計)23経営体</u> ・生産体制の構築(H21～26) <ul style="list-style-type: none"> ◆新規、再生モデル園の設置や、先達地の育定師養成派遣研修の実施、栗栽培テキストやGA-Pチェックシート作成、加工業者等対象の認定・改植講習会、栗生産者大会が開催できた。 ◆栗園地再生に向け、しまんと新一次産業(株)が設立された。 ◆しまんと新一次産業(株)の下 達井栗園作業道整備L=2,930m (H25こうち農業立替え支援事業) 新改植の増加(北幡地区) H22:3ha、H23:3.5ha、H24:9ha、H25:7.0ha、H26:7.8ha (H22～H26累計31.2ha) ・雇用の創出(H22～26) <ul style="list-style-type: none"> ◆H18に就職したタネニサ(有)十和工場では、H24で年間延べ800人の雇用の創出に繋がった。 ・施設整備、商品開発(H24～26) <ul style="list-style-type: none"> ◆道の駅とおわの農地内に、カフェを併設した加工場を整備し、商品開発や販路開拓に取り組んだ。 <u>H26.4月「おしゃくりカフェオーブン」</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・生産者の高齢化と園地の老木化による、原料供給不足 ・イノシシ・シカ等鳥獣被害による生産意欲の低迷 ・JA高知はた太正十和支所運営部会と西土佐支所運営部会の連携、活性化 	<ul style="list-style-type: none"> ◆生産拡大 ◆施設整備 ◆担い手育成 ◆販路開拓

修正後

第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
生産拡大					原材 料供給量(JA集 合会) (H20:59t) (H22:56t)	100t
					事業導入等で年間1000本(2ha)以上実施	
施設整備						
					低温貯蔵庫・選果機、加工場など	
担い手育成						
					栽培講習会、個別巡回指導の実施	
販路開拓						
					・民間との連携強化 ・商品開発及び販路開拓	



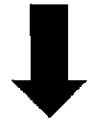
第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
生産拡大					原材 料供給量(JA集 合会) (H20:59t) (H22:56t)	100t
					事業導入等で年間1000本(2ha)以上実施	
施設整備						
					低温貯蔵庫・選果機、加工場など	
担い手育成						
					栽培講習会、個別巡回指導の実施	
販路開拓						
					・民間との連携強化 ・商品開発及び販路開拓	

修正項目(案)

【高幡地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
21 循環型社会の構築を促進するための森林資源の有効活用 《狭原町》	持続可能な森林経営のもとで計画的な木材生産を行い、FSC森林認証基準に基づき生産した木材製品の販売、及び林地残材等を活用した木質ペレットの製造・販売等を通じて、地域林業の中核となる森林組合の経営体質を強化し、森林所有者への所得向上を推進する。	・狭原町森林組合 ・狭原町 ・ゆすはらペレット㈱	<ul style="list-style-type: none"> ・安定的な木材生産(H21～25) <ul style="list-style-type: none"> ◆異業種とのJVによる効率的な「森の工場」を運営し、安定的な木材生産を図った。 ・FSC認証材の拡充による製材品の販売強化(H21～25) <ul style="list-style-type: none"> ◆製材品需要が低迷するなか、継続的な営業展開によりFSC認証材の販売量1,341m³(H24)を堅持。 ・木質ペレットの安定供給(H21～25) <ul style="list-style-type: none"> ◆木質エネルギーを活かした循環型森づくりの一環として、木質ペレットの安定供給を行った。 ◆材種による生産効率の低下を改善するため、おが粉製造機械等を導入し、効率的な生産体制を整えた(H24)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・通年的な生産体制の確立と生産性の向上 ・新規顧客開拓のための営業活動の強化 ・一般村との区別化を図るFSC認証材のPR強化 ・ボイラーや等のペレット活用施設の普及とペレット品質の安定化(規格等) 	<ul style="list-style-type: none"> ◆森林資源の成熟度や事業体の体質に即した計画的な木材生産の推進 ◆営業体制の強化と顧客へのPR促進によるFSC認証材の販売拡充 ◆木質バイオマスの利活用の促進

修正前



【高幡地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
23 循環型社会の構築を促進するための森林資源の有効活用 《狭原町》	持続可能な森林経営のもとで計画的な木材生産を行い、FSC森林認証基準に基づき生産した木材製品の販売、及び林地残材等を活用した木質ペレットの製造・販売等を通じて、地域林業の中核となる森林組合の経営体質を強化し、森林所有者への所得向上を推進する。	・狭原町森林組合 ・狭原町 ・ゆすはらペレット㈱	<ul style="list-style-type: none"> ・安定的な木材生産(H21～26) <ul style="list-style-type: none"> ◆異業種とのJVによる効率的な「森の工場」を運営し、安定的な木材生産を図った。 ・FSC認証材の拡充による製材品の販売強化(H21～26) <ul style="list-style-type: none"> ◆製材品需要が低迷するなか、継続的な営業展開によりFSC認証材の販売量1,341m³(H24)を堅持。 ・木質ペレットの安定供給(H21～26) <ul style="list-style-type: none"> ◆木質エネルギーを活かした循環型森づくりの一環として、木質ペレットの安定供給を行った。 ◆材種による生産効率の低下を改善するため、おが粉製造機械等を導入し、効率的な生産体制を整えた(H24)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・通年的な生産体制の確立と生産性の向上 ・森林組合の自力生産力の拡大 ・新規顧客開拓のための営業活動の強化 ・一般村との区別化を図るFSC認証材のPR強化 ・ボイラーや等のペレット活用施設の普及とペレット品質の安定化(規格等) ・バイオマス需要の増大により、他地域からの調達が困難 	<ul style="list-style-type: none"> ◆森林資源の成熟度や事業体の体質に即した計画的な木材生産の推進 ◆営業体制の強化と顧客へのPR促進によるFSC認証材の販売拡充 ◆木質バイオマスの利活用の促進

修正後

第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
森林資源の成熟度や事業体の体質に即した計画的な木材生産の推進					木材生産量 (H19:0m ³) (H22:648m ³)	5,000m ³
木材生産基盤(作業路・高性能林業機械)の整備状況に応じた生産システムの確立と生産性の向上を推進					認証材の販売量 (H19:1,462m ³) (H22:1,015m ³)	1,600m ³
営業体制の強化と顧客へのPR促進によるFSC認証材の販売拡充					ペレット原材料 (H22:2,465t) ペレット生産量 (H22:1,108t)	3,900t 1,700t
県内外の新たな顧客の開拓を図り得る人員の配置と機会の活用を図り、FSC認証材を核とした木材加工品の販売拡充						
木質バイオマスの利活用の促進						
森林所有者等の生産意欲を増大し得る体制を整備しつつ、ペレット生産のための原材料の安定供給を図る						
木質ペレットを中心とした木質バイオマスの利活用の促進						
ペレット製造施設等の導入						



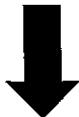
第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
森林資源の成熟度や事業体の体質に即した計画的な木材生産の推進					木材生産量 (H19:0m ³) (H22:648m ³)	5,000m ³
木材生産基盤(作業路・高性能林業機械)の整備状況に応じた生産システムの確立と生産性の向上を推進					認証材の販売量 (H19:1,462m ³) (H22:1,015m ³)	1,600m ³
営業体制の強化と顧客へのPR促進によるFSC認証材の販売拡充					ペレット原材料 (H22:2,465t) ペレット生産量 (H22:1,108t)	3,900t 1,700t
県内外の新たな顧客の開拓を図り得る人員の配置と機会の活用を図り、FSC認証材を核とした木材加工品の販売拡充						
木質バイオマスの利活用の促進						
森林所有者等の生産意欲を増大し得る体制を整備しつつ、ペレット生産のための原材料の安定供給						
木質ペレットを中心とした木質バイオマスの利活用の促進						
ペレット製造施設等の導入					森林組合による高性能林業機械の導入	

修正項目(案)

【高幡地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
40 中土佐町の地域資源を活用した体験型・滞在型観光の推進 《中土佐町》	観光物産センターを設立し、中土佐町の観光情報発信及び観光客の誘致を行うとともに、重要な文化的景観を活かした久礼のまち歩きや漁業体験など体験型観光メニューの充実を図り、中土佐町における交流人口の拡大を目指す。	・中土佐町	<ul style="list-style-type: none"> ・体験観光の推進(H21～25) <ul style="list-style-type: none"> ◆久礼のまち歩き まち歩きガイドを8名養成し、マップを作成配布するとともに、随時受け入れを行っている。ガイドコース・内容共に見直し、JRとタイアップして「味な散歩道」による販売を実施した。 ◆漁業体験 県内小学校、老人クラブ等に積極的にPRを行い、誘致に繋がっている。 ◆重要な文化的景観 「久礼の港と漁師町の景観」認定(H23年2月)、同時に「四万十川流域の文化的景観 上流域の農山村と流通・往来」に旧大野見地区萩中川と下ル川の流域が追加認定を受けた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験メニューの充実と受け入れ体制の構築 ・ガイドの確保及び質質向上 	<ul style="list-style-type: none"> ◆人材育成 ◆誘客に向けた情報発信 ◆観光物産センターの設置

修正前

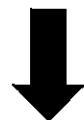


【高幡地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
42 中土佐町の地域資源を活用した体験型・滞在型観光の推進 《中土佐町》	観光物産センターを設立し、中土佐町の観光情報発信及び観光客の誘致を行うとともに、重要な文化的景観を活かした久礼のまち歩きや漁業体験など体験型観光メニューの充実を図り、中土佐町における交流人口の拡大を目指す。	・中土佐町	<ul style="list-style-type: none"> ・体験観光の推進(H21～26) <ul style="list-style-type: none"> ◆久礼のまち歩き まち歩きガイドを8名養成し、マップを作成配布するとともに、随時受け入れを行った。ガイドコース・内容共に見直し、JRとタイアップして「味な散歩道」による販売を実施した。 ◆漁業体験 県内小学校、老人クラブ等に積極的にPRを行い、誘致に繋がった。 ◆重要な文化的景観 「久礼の港と漁師町の景観」認定(H23年2月)、同時に「四万十川流域の文化的景観 上流域の農山村と流通・往来」に旧大野見地区萩中川と下ル川の流域が追加認定を受けた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験メニューの充実と受け入れ体制の構築 ・ガイドの確保及び質質向上 ・团体客の受入と觀光客内様態の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ◆人材育成 ◆誘客に向けた情報発信 ◆観光物産センターの設置及び改修

修正後

第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
人材育成				→	体験受け入れ数 (H22:1,700名)	2,300名
	インストラクターの増、磨き上げ			顧客サービス向上による リピーター増		
誘客に向けた情報発信				→	宿泊者数 (H24:13,539名)	13,800名
	中土佐町特別番組の放送、マスコミ、情報誌への情報提供			旬の地域情報の提供による 誘客		
観光物産センターの設置				→		
観光物産センターの設立	観光物産センターの活動の展開					



第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
人材育成				→	体験受け入れ数 (H22:1,700名)	2,300名
	インストラクターの増、磨き上げ			顧客サービス向上による リピーター増		
誘客に向けた情報発信				→	宿泊者数 (H24:13,539名)	13,800名
	中土佐町特別番組の放送、マスコミ、情報誌への情報提供			旬の地域情報の提供による 誘客		
観光物産センターの設置及び改修				→		
観光物産センターの設立	観光物産センターの活動の展開				観光物産センターの改修	

